

# 公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

## がんの子どもを守る会研究助成〈2026 年度募集要項〉

### 1. 目的

公益財団法人がんの子どもを守る会研究助成金は、子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とするもので、原資は全て寄付金に依る。

### 2. 資格及び対象

1. 国内における国・公・私立の大学その他の医療機関及び研究機関に属する医療従事者や教育・研究機関に属する教育・研究関係者の個人若しくはグループによる国内に成果を還元する調査・研究等を対象とし、助成金の目的に沿うものとする。
2. 研究助成委員会（治療研究委員会設置規程第3条第1項に基づく）は、自ら研究代表者として応募できないこととする。

### 3. 募集課題

小児がんに関する研究のうち以下1～3のうちいずれかを選択

『小児がんに関する研究』

1. 小児がん経験者に関する研究
2. 小児がんに関するトータルケアの研究
3. 小児がんに関する基礎系・臨床系の研究

基礎系・臨床系の研究はもとより、患者家族会であるがんの子どもを守る会の助成制度であり小児がん経験者及び小児がんに関するトータルケアについても、積極的な応募を期待するものである。

### 4. 助成件数と金額

30件～40件程度（1件につき10万円～100万円程度：助成総額1500万円）

※助成額は審査委員会にて決定

※今年度より助成総額を増額しております。

### 5. 助成期間

2026年10月1日～2027年9月30日 \*原則として期限を超過しての使用は認めない（残額は返金とする）。

## 6. 応募方法

所定の様式（当会ホームページよりダウンロード）により応募書類を作成し、PDF ファイル形式でメールに添付し送付すると共に、押印のうえ原本1部を当会へ送付すること。

## 7. 募集期間及び締切り

募集期間：2026年4月1日～2026年6月30日

<応募の締め切り>

1. PDF ファイル形式でメールに添付し送付：2026年6月30日**必着**
2. 原本の郵送：2026年6月30日**消印有効**

## 8. 提出先

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-3-12 公益財団法人がんの子どもを守る会  
がんの子どもを守る会研究助成担当宛て

電話：03-5825-6311 メール：jimu@ccaj-found.or.jp

※応募確認のため必ず申請書をメールに添付し送付すること。

また、申請書原本は書留郵便など記録の残るもの以外は未達の責任を負いかねます。

## 9. 選考方法

本会研究助成委員会の審議を経て理事会の承認のうえ決定する。

## 10. 選考結果の通知

2026年9月末までに、応募したすべての研究代表者に結果を通知する。

## 11. 報告及び研究成果の発表

1. 助成金の交付を受けた研究者は、単年ごとに定められた期日までに、所定の様式により研究報告書を提出する。報告書の公表権利などは公益財団法人がんの子どもを守る会に帰属する。
2. 助成金の交付を受けた研究者は、研究終了後、翌年度のがんの子どもを守る会公開シンポジウムにて研究成果を一般公開する。報告のスタイルや書式については採択後に通知する。
3. 助成金の交付を受けた研究者が、研究の結果又は経過の全部若しくは一部を刊行し、又は書籍、雑誌等に掲載する場合は、本会より助成金を受けた研究である旨を明記する。

## 12. 経理報告

交付を受けた研究者は、助成期間終了後 1 ヶ月以内に所定の様式により決算を含む報告書を提出する。

## 13. 倫理審査について

助成が決定した場合は、必ず何らかの倫理審査機関の承認を得ることを原則とし証明の写しを求める。

倫理審査の状況は申請書にチェックを入れること。なお、動物実験の場合は、申請書の確認欄にチェックを入れること。

#### 14. その他

1. 助成金は、申請者（研究代表者）の責任で管理すること。
2. 助成金は、申請者（研究代表者）の属する施設の都合であっても、助成金名目以外の受け取り方法は認めない（例：寄付金名目での受け取りは認めない）。
3. 助成金管理に要する間接経費は認めない。
4. 同一の申請者（研究代表者）からの複数申請は不可とする。
5. 一般公開用（当会公開シンポジウム）に提出した報告書については、当該助成金の支援者（寄付者）への報告及び、寄付の依頼のために広く活用することがある。

#### 15. 2025 年度の助成決定研究一覧（敬称略：順不同）

##### 2025 年度

氏 名	研 究 名 称
荒巻 祐菜	放射線治療のプレパレーションにおけるシェル作成体験の意義
池田 順治	急性骨髄性白血病の代謝特性を標的とした L-asparaginase 併用療法の開発
井上 健	小児がんの臨床研究の基盤となる小児腫瘍病理診断に関する資料の作成および小児腫瘍病理診断の教育研修活動
上原 秀一郎	小児腎腫瘍に対する新規治療法開発のための国際臨床試験 UMBRELLA-J
上山 美津穂	小児がん患児のスピリチュアルウェルビーイング —健康関連 QOL の視点から—
梅田 雄嗣	ダウン症候群における胚細胞腫瘍発症メカニズムの解明
大嶋 宏一	小児・AYA 世代の再発および難治性 T 細胞性急性リンパ性白血病および T 細胞性リンパ芽球性リンパ腫に対するイサツキシマブ併用化学療法の初期第 II 相臨床試験
大脇 由樹	神経芽腫を対象とした年齢別核医学検査プロトコルの最適化と診断精度向上に関する研究
岡 千紘	小児脳腫瘍の転帰改善に繋がる医療アクセス格差の改善策の検討
小倉 浩一	小児・AYA 世代に好発する 悪性骨腫瘍に対する疾患レジストリの構築およびレジストリを活用した骨肉腫の臨床開発の推進に関する研究
加藤 格	小児急性白血病に対する臍帯血移植の成績と予後因子の国際検討研究～国際共同研究による欧州と日本の比較～
金沢 英恵	小児がん患児の Well-being を支えるホスピタル・ファシリティドッグの役割
川原 勇太	小児がん経験者の晩期合併症および生物学的早期老化における腸内環境解析

岸本 健治	地域全患者データを用いた小児がん生存分析：リアルワールドにおける生存率改善の可視化
慶野 大	初発時慢性期および移行期小児慢性骨髄性白血病に対する第2世代チロシンキナーゼ阻害薬の適正使用に関する研究開発
小村 未来	小児がん経験者が感じる「生きづらさ」に繋がる要因
小堀 宅郎	小児髄芽腫の治癒率向上を目指した細胞内足場タンパク質の阻害に基づく新規免疫チェックポイント阻害療法の開発
小林 隆	mTOR 細胞内シグナル発現機構に着目した肝芽腫薬剤耐性機序の解明および克服
佐々木 麻里子	ラブドイド腫瘍に対する既存の治療薬および有望薬との相乗効果に基づく併用療法の開発
竹内 正宣	小児・AYA 世代における各種疾患、症候を対象に仮想現実（VR）機器を用いた体性認知療法の有効性、安全性を検討する観察研究
武田 朋也	肺微小環境の RANK/RANKL を標的とした骨肉腫肺転移治療法の開発
中野 嘉子	小児/AYA 脳腫瘍のためのリキッドバイオプシー研究
棗田 学	髄芽腫における SLFN11 シングルセル解析および再発様式の解明
西村 範行	高リスク神経芽腫患者における微小残存病変（MRD）評価法の開発
西村 雄宏	神経芽腫に対する抗 GD2 抗体及び iPS 細胞由来 NKT 細胞を用いた免疫療法開発
橋井 佳子	腸内細菌を利用した小児用経口がんワクチンの開発
檜山 英三	小児・AYA 世代に好発する悪性腫瘍に対するシスプラチン投与による内耳毒性を軽減するチオ硫酸ナトリウムの第II相試験の完遂
深野 玲司	デジタル PCR を活用した ALK 陽性未分化大細胞型リンパ腫における予後因子の探索
福光 延吉	副作用軽減を目指した小児脳腫瘍患者に対する陽子線治療法開発
古金 遼也	肝芽腫細胞におけるエピゲノム異常に着目した新規治療標的の同定
細谷 要介	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晩期合併症と QOL の生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成～他機関との連携
三上 貴司	急性骨髄性白血病における微小残存病変評価の革新とバイオマーカー探索基盤の確立
森 健	標準的化学療法を行った進行期小児リンパ芽球性リンパ腫の予後因子探索を主目的とした多施設共同研究 JPLSG—ALB—NHL-14
吉田 健一	先天性骨髄不全症における造血器腫瘍の早期発見法の構築
吉田 沙蘭	小児がん患児の父親の精神的健康およびその関連要因に関する研究

■お問い合わせ

公益財団法人がんの子どもを守る会 がんの子どもを守る会研究助成担当

電話：03-5825-6311

E-mail：jimu@ccaj-found.or.jp

**以上**